



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

おいでだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 009

2023 Winter

★ CONTENTS

- 02 潰瘍性大腸炎の発症に糖鎖が大きく関わることを発見
- 03 医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました
- 03 中国瀋陽大学腫瘍研究所、尹元琴教授が研究所で
共同研究を開始しました
- 04 新型コロナウイルス感染症対策として
入院前の抗原検査を実施しています
- 04 NEW!! 看護部の今どきユニフォームお披露目
～ユニフォームの2色使いとジェンダーレス～
- 05 合同隣がん教室、今年も開催しました&
大阪市庁舎のライトアップが実現しました!
- 06 患者サービス向上に向けた取り組み
- 07 ホームページを更新しました
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 ご寄付について



潰瘍性大腸炎の発症に糖鎖が大きく関わることを発見

潰瘍性大腸炎は、結腸や直腸に持続的な潰瘍や炎症が生じる病気です。軽度なものから生命を脅かす重度なものまでさまざま、再発を繰り返すことも多く、いまだ良い治療法がありません。この病気は、大腸がんの発症につながることもあり、日本では現在、国の指定難病になっています。2015年では、日本で約3万人がこの病気を患っています。

このたび、当センター研究所の糖鎖オンコロジー部は、スペイン・バルセロナのバルデブロン研究所および東北医科薬科大学と共同研究を行い、この病気の発症が、糖鎖によって引き起こされるメカニズムを明らかにしました。この研究結果は、米国の研究学術誌の一つである「米国科学アカデミー紀要」に掲載されました。糖鎖は、グルコースやマンノース、フコースと呼ばれる糖が鎖状に連なったもので、人の細胞や臓器にさまざまな形で存在します。糖鎖は、人の腸管では、ムチンと呼ばれるタンパク質に結合しており、粘液に多く含まれます。今回のこの研究結果により、便に含まれるムチンの糖鎖を分析することで、潰瘍性大腸炎の予防や、病状の経過を予測することが可能になるかもしれません。

私たちの腸管から分泌される粘液は、いわば洗浄液のように働き、腸管で有害な細菌を洗い流すことができます。しかし、潰瘍性大腸炎にかかると、ムチンの糖鎖の種類が変化することで、粘液の粘度が異常に高くなり、腸管の表面を厚く覆ってしまいます。そのため、有害な細菌が洗い流されず、粘着し、長期間、留まってしまいます。その結果、腸管の表面から有害な細菌が入り込み、感染を引き起こして、初期の炎症反応を起こすことが明

らかになりました。

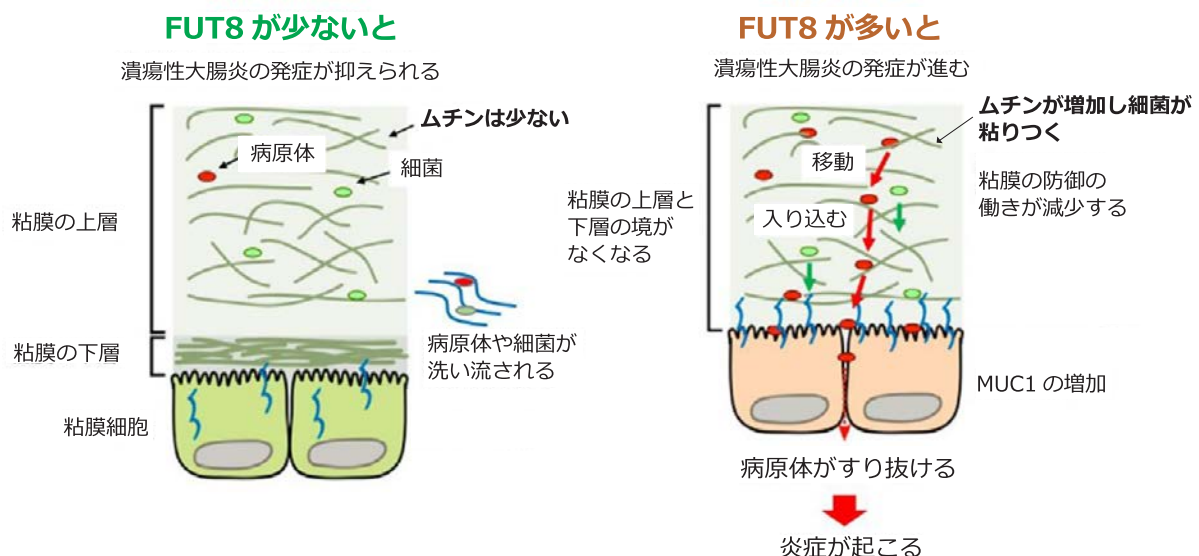
また、今回の研究では、患者検体の解析や、実験マウス・培養細胞を使った実験によって、このムチンの糖鎖の変化が、FUT8（フコース転移酵素）という糖鎖を作る酵素が異常に増加するためであることを突き止めました。FUT8はコアフコースという糖鎖構造をつくり、タンパク質の性質を物理的・生物学的に大きく変化させます。FUT8は現在、糖鎖オンコロジー部・部長である谷口直之の研究グループが、1998年の大阪大学医学部・生化学講座所属時代に遺伝子を発見し、その後、いろいろな病気との関連を明らかにしてきました。2016年には、FUT8が働かないマウスでは、潰瘍性大腸炎の症状が緩和されることを、大阪大学医学部の三善英知教授のグループとの共同研究で明らかにしました。また一方で、バルセロナ・バルデブロン研究所のゲラルド・カンテロ・レカレンス博士のグループは、2013年にFUT8がムチンの分泌に関与していることを発見しました。これらの経緯から、私たちは、潰瘍性大腸炎におけるFUT8の役割をより詳しく明らかにするため、共同研究を実施し、今回、このような研究成果を得ることができました。

今後は、この発見から、潰瘍性大腸炎の治療や、大腸がんを予防する方法の開発に努めます。なお、カンテロ・レカレンス博士は2022年12月から3カ月間、欧州分子生物学機構(EMBO)のサポートを受け、当センターの研究所で共同研究を継続しています。



ゲラルド・カンテロ・レカレンス博士

【図1】



医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました

当センターは2022年10月14日に、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました。この協定は、新規のがん診断・治療・予防法の開発、生活の質（QOL）向上に向けた保健・栄養指導などの開発を目的としています。大阪母子医療センターも同日に協定を締結しました。

会見の様子



左：総長 松浦 成昭
右：医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 中村 祐輔

健康長寿社会の実現に向けて
医薬基盤・健康・栄養研究所(NIBIOHN)と
大阪国際がんセンター・大阪母子医療センターが

連携協定

連携協定のイメージ

NIBIOHN

【特徴】
・医薬品等に係る
基盤的技術の研究
・個別最適化された
健康・栄養指導

連携協定

大阪国際がんセンター

【特徴】
・最先端のがん医療
・がんサバイバーの支援

連携協定

大阪母子医療センター

【特徴】
・高度な産産期・小児医療
・積極的な母子保健事業

- NIBIOHNと各センターで
- ✓ 研究成果の共有
 - ✓ 臨床情報の共有
 - ✓ 定例会議での意見交換
 - ✓ 共同研究

目的

- 新規のがん診断・治療・予防法の開発、生活の質（QOL）向上に向けた保健・栄養指導等の開発

目的

- 母子に関する疾病の原因解明・治療法の開発
- 急性期治療終了後の患者の生活の質改善に寄与

連携協定により

大阪に本拠を置く3機関の特徴を生かし、革新的な診断・治療法、薬の開発や、治療後の生活の質の向上を目指すとともに、大阪をライフサイエンスのイノベーションセンターとする一助とする

中国瀋陽大学腫瘍研究所、尹元琴教授が研究所で共同研究を開始しました

研究所 所長 谷口 直之

瀋陽大学腫瘍研究所の教授尹元琴（イン ユエンチン）教授が公益財団法人日中医学協会の日中笹川医学奨学金制度（共同研究型）に採択され、当センター研究所の糖鎖オンコロジー部と2022年9月から共同研究を開始しました。新型コロナにより来日が延び延びになっていましたが、尹教授は、これまで、乳がんにおけるインテグリンというタンパク質の役割の研究を続けておられます。インテグリンは糖鎖を持つタンパク質であることから、糖鎖の役割を明らかにすることを希望して来所されています。研究は大川 祐樹研究員が中心となり開始しました。滞在予定は6カ月の予定でしたが一年に延長される予定です。当研究所では、乳がんに関与するインテグリンのほか、CD151というタンパク質につ



尹元琴教授

いてもマウスおよびがん患者さんにおける発現を観察し、またそれらの糖鎖変化と糖鎖をつくる糖鎖遺伝子の役割を解明する予定です。当研究所では現在3名の中国からの留学生を大阪大学連携大学院博士課程の学生として受け入れ、また2022年11月末からは、スペインのバルセロナからの上級研究者も加わり、英語を共通語として順応しやすい環境にあると考えています。



【研修生の皆さん】

李 泰伯さん、史 旻さん、王 梓灝さん

新型コロナウイルス感染症対策として 入院前の抗原検査を実施しています

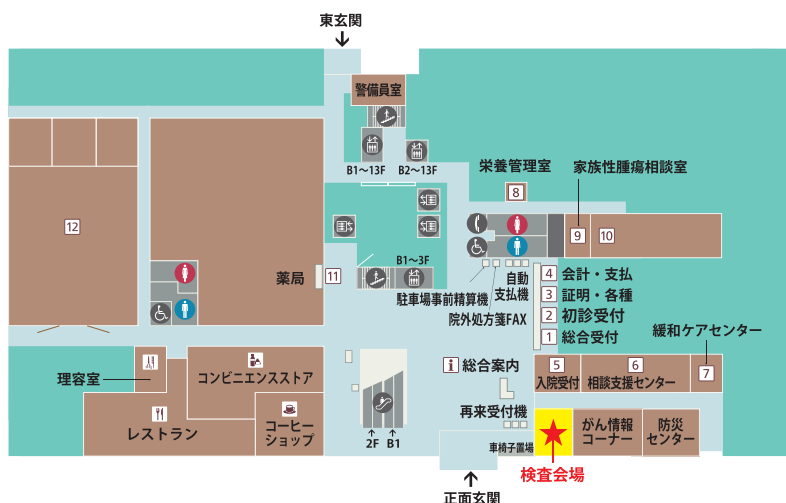
当センターには、免疫力が低く感染症にかかるリスクが重篤化しやすい患者さんが多くおられます。

全ての入院患者さんに安心して治療を受けていただくために、入院当日の入院手続きを行う前に、1階入院受付前の検査会場にて「抗原定量検査」により陰性を確認した上で入院していただいております（入院時間が平日午後、夜間・休日の場合は、病棟にて抗原定量検査を行います）。

検査結果が判明するまで1時間～1時間30分ほどかかり、検査結果が判明するまで、病棟内のスペースでお待ちいただくことになります。

引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいりますので、皆さまのご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

外来 1階地図



NEW!! 看護部の今どきユニフォームお披露目 ～ユニフォームの2色使いとジェンダーレス～

看護部 副看護部長 山根 康子

看護部では2022年10月にユニフォームを5年ぶりにモデルチェンジしました。今回は、看護部がこのユニフォームに込めた2つの思いをお話します。

1つ目は、働き方改革への思いです。今回、日勤者はネイビー/ピンク、夜勤者はワインレッド/ピンクとユニフォームの色を変えて、勤務時間を“見える化”しました。これによって勤務時間が過ぎたらユニフォームの色で残業している人が一目瞭然となり、みんなが時間や優先度・重要性を意識しながら助け合って働くようになりました。2つ目は、ジェンダーレスへの思いです。今までのユニフォームは男性はブルー、女性はピンクと上着の色を区別していましたが、今回は男女に関係



なくユニフォームでジェンダー平等を表現してみました。看護部の理念でもある「多様性への対応」を目指す私たちは、「今を大切に」「自分らしく」「その人らしく」をモットーに、当センターの看護師として、患者さんだけでなく職員同士でも、多様な価値観を認め合える看護組織を目指します。



合同膵がん教室、今年も開催しました＆ 大阪市庁舎のライトアップ実現がしました！

肝胆膵内科副部長 膵がん教室代表 池澤 賢治

このたび 2022 年 11 月 19 日に、北海道膵がん教室・パンキャンジャパンの皆さまと、大阪府・大阪市・北海道・札幌市のご後援のもと、第 2 回合同膵がん教室を開催し、北海道と合わせ 200 名を超える多数の方々にご参加いただきました。毎月第 3 水曜日にセンター内で開催していました当センターの膵がん教室は、コロナ禍の影響で参加者が限定されていた状況が続きましたが、チーム同士の交流をもとに、2021 年 11 月に第 1 回の合同膵がん教室を北海道膵がん教室・パンキャンジャパンの皆さまとオンライン開催した経験を生かし、その後は完全オンラインあるいはハイブリッド開催で継続することができました。

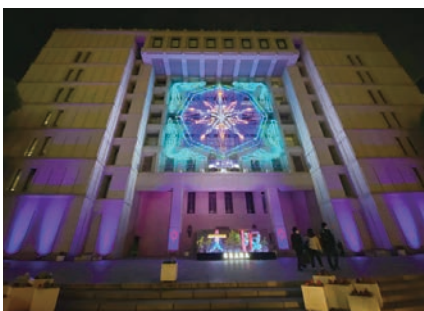
今回の第 2 回合同膵がん教室に先立ち、11 月 17 日の世界膵臓がんデーには、大阪市庁舎のライトアップが実現しました。これはパンキャンジャパン・NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会の皆さまのご尽力、行政の皆さまのご理解によるものです。

完全オンラインで開催した第 2 回合同膵がん教室では、松浦総長からのごあいさつの後、建築家・安藤 忠雄氏からの、氏が以前に膵がんの手術を受けられた際のご経験を踏まえた、患者さん・ご家族の皆さまへの気持ちのこもったメッセージを、北海道大学大学院消化器外科学教室 II・中村 透先生が朗読されました。続いての講演では、各領域の専門医師から膵がんの 3 大治療である内科治療・外科治療・放射線治療について、池澤から膵がんの抗がん剤治療および最新の遺伝子診療について、センター消化器外科・秋田副部長から膵がんの外科治療について手術の方法や合併症なども含めて具体的な内容を、北海道大学大学院放射線治療学教室・加藤 徳雄先生からは膵がん治療における放射線の位置付け、陽子線治療などのことも含めてお話しいただきました。治

療に対する講演の後には、当センターの加藤理学療法士によるリフレッシュタイム（ストレッチ）で参加者の皆さまにリラックスしていただき、運動の重要性についてもお話しいただきました。パンキャンジャパンの眞島理事長にはご自身の体験談、膵がん早期発見や膵がん研究の重要性、パンキャンジャパンでの幅広い活動についてお話しいただきました。会の後半のパネルディスカッションでは中村先生、パンキャンジャパン北海道の白岩支部長の司会により、患者さん・ご家族から事前に寄せられた多数のご質問に対して、演者から直接回答させていただきました。最後に、作曲家・饗場 公三氏に今回の合同膵がん教室に合わせて作曲いただきました膵がんテーマソング“希望の光”（作詞：当センター内科・外科系外来・山田看護師長）の合唱および当センター膵がん教室有志によるダンス、歌手・山口 愛氏の歌唱で会を終了しました。

合同開催後の反響としましては、患者さん・ご家族を含めた多数の参加者の皆さまから、“内容も分かりやすくとても勉強になった”など多数の好評の声を頂きました。貴重な情報発信の場をつくることができ、今後の活動のモチベーションにもつながったと思います。合同膵がん教室開催にあたりご尽力・ご協力いただきました皆さま、またご参加いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

当センターの膵がん教室は、たくさんの職種のメンバーが連携して一つのチームとして活動できることが強みと考えております。今後もこの強みを生かして、情報発信の機会をさらに増やしていけたらと考えておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



患者サービス向上に向けた取り組み

当センターでは、患者さんのお声に耳を傾け、きめ細やかで質の高いサービスを提供するため「患者サービス向上委員会」を設置しています。委員会では、年に2回患者さんを対象とした音楽会を開催しています（夏は七夕会、冬はクリスマス会など）。

また、職員向けの接遇研修や挨拶推進活動、患者満足度調査、院内の見まわりを実施し、当センターの理念「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」の実現に向け取り組んでいます。今回は、このような患者サービス向上に向けた取り組みについて、いくつかご紹介いたします。

まずは、当センターに計11カ所設置しているご意見箱（今年度より2階外来・9階人間ドックにも設置）へお寄せいただいたご意見などに対して、改善した事例をご紹介します。

★ジェンダーに関するご意見への取り組み

当センターでは、患者さんやご家族の立場に立ち、検査や治療を行えるように努めております。その中で女性患者さんから頂いたお声にお応えすべく、各診療科で取り組んでいるプライバシーへの配慮や患者さんの不安を取り除くサポートの例を詳細にヒアリングし、より多くの皆さまに知っていただけるよう当センターのホームページへ掲載いたしました。

例えば、放射線腫瘍科では、女性患者さん向けに女性技師のみで対応する「女性技師対応枠」を設けています。毎日（休診日を除く）午後3時から4時まで、放射線治療装置4台中

1台で対応していますので、ご希望の方は初診時にお申し出ください。

また、放射線診断・IVR科では、乳腺撮影時は全て女性技師が対応し、CT更衣室前では女性の係員が検査衣のご説明や更衣が困難な方を補助させていただいています。臨床検査科においても、生理機能検査では同性技師による検査に対応しておりますので、ご希望の方は受付にてお申し出ください。



▲検査・治療を受けられる女性患者さんへ

★ダイルームにおける改善

病棟のダイルームでは、電子機器類のコンセントが床に散乱しており見た目も良くなく、つまづく危険がありました。そこで、テーブルに電源タップを取り付けコンセントは結束バンドで固定し、気持ちよく安全にお使いいただけるよう改善いたしました。

● Before



● After



★外来における改善

外来処置室前には、患者さんの待ち時間における番号の表示がなく、順番が分かりにくいとお声がございました。そこで、電子掲示板に表示させることで、順番を知っていただけるようになりました。

また、待合室でのストレスを少しでも緩和し、リラックス

していただけるよう「ミストミュージック」*を導入いたしました。試験期間のアンケート調査でも好評でしたので、地下1階放射線腫瘍科、1階、2階外来および外来化学療法科にも拡大いたしました。

*…「包まれ感のある癒しの音空間」

次に、患者さんの目線に立つために、当センター職員が心掛けていることについてご紹介いたします。

★研修会、挨拶推進活動

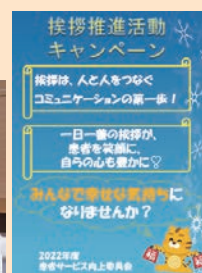
当センターでは、ご意見などから挨拶の必要性を実感しております。そのため、患者さんへの挨拶や職員間での挨拶の日々の実践について、研修会や挨拶推進活動を通じて全職員に啓発しています。今年度は、ポスターや日めくりカレンダーに標語を書くことで、コミュニケーションの第一歩である挨拶の大切さをよく理解して毎日の診療に励んでいます。

また、接遇研修では、ホスピタリティに優れた施設からさまざまな視点を学んだり、職員の言動や情報の分析・救命事例の再現から円滑な医療提供を考えたりと、多職種連携での

手掛かりとなる研修になりました。これからも研修を重ねてまいります。



接遇研修の様子(左)、挨拶推進活動ポスター(右)



この他にも、患者満足度調査結果に基づいた改善や、状況下に合わせた接遇マニュアルの改訂など、多様な活動を行っております。今後も、当センターでは患者サービス向上に努めてまいります。

ホームページを更新しました

■ワンランク上のサービス

当センターの“ワンランク上のサービス”をより多くの皆さまに知っていただくため、「利便サービスのご案内」や「特別病室・各個室のご案内」、「アートな病院プロジェクト」、「大阪4大オーケストラによるクラシック音楽会の開催」、「患者さんからの声」を掲載したページを、当センターホームページ上で公開しました。

トップページ上部の、スライダー（画像が横向きに流れるスライドショー）よりご覧いただけます。また、ご来院されるうえで閲覧されることの多い「診療実績」や「主な医療機器」、「相談支援センター」、「交通アクセス」のページにもリンクできますので、お求めの情報がございましたらぜひご覧ください。



▼当センターホームページ上部 スライダー



■患者さんの権利と責務

私たちセンター職員は、医療行為が患者さんと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであり、医療の中心はあくまでも患者さんであることを深く認識し、「患者さんの権利と責務」を制定しています。このたび、当センターの理念である「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」をより一層推進していくため、患者さんの権利を追加するなどの変更を行いました。今後も、患者さんの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。



1. 基本的人権が尊重され、診療におけるすべての個人情報
が保護されます。
2. 診療に関して十分に理解した上で、自らの意思で治療方法を選択し、治療に取り組んでいただきます。
3. 十分な説明と情報提供を受けることができます。
4. 別の医療機関の医師に意見を聞く(セカンドオピニオン)ことができます。
5. 自由意思の下、将来の患者さんのために診断治療の進歩に貢献していただきます。
6. 良質な医療を提供するため、円滑な診療にご協力いただきます。

下線が追加・変更部分です。

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

[file 009]

がん患者さんへの自治体独自の助成制度について

本年もがん相談支援の現場からホットな情報をお届けしてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。さて、今年最初の情報は「自治体独自の助成制度」です。

病気や障がいは暮らしに大きな影響を及ぼすため、がん相談支援センターではお金や介護などの相談をお受けすることが多くあります。その中には、がん治療に伴って起こる脱毛（頭髪、まつげ、眉毛など）、皮膚や爪の変色、爪の変形など「アピアランス」に関する困り事も寄せられ、ウィッグや補整下着などの情報をお伝えすることで、気持ちが前向きになったり、日々の外出や学校、お仕事へ復帰するきっかけになったりすることもあります。

このウィッグなどの費用は原則、ご自身の負担になりますが、近年、大阪府下でも独自の助成制度を設ける自治体が増えているのをご存じでしょうか。がん相談支援センターで調べたところ、大阪府下11市*でウィッグや乳房補整具購入費に対する助成が始まっていました。

また、大阪府下3市*では、介護保険の対象とならない40歳未満の若年がん患者さんが在宅療養する際に必要な物品やサービスへの助成が始まっています。

*令和5年1月現在

助成品目・金額や申請方法は市によって異なるため、このスペースで詳しくお伝えすることができず申し訳ありません。情報が必要な方は、お住まいの市のホームページや広報誌でお調べになってみてください。また、当センター1階「がん情報コーナー」に独自に助成を実施する各自治体のチラシを取り寄せて、各市のゆるキャラとともに配架していますのでご来院の際にぜひご覧ください！

♥がん相談ホットライン (情報提供・相談専用) ☎ 06-6945-1870

♥希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前10時～午後4時

ご寄付について

寄付者ご芳名

2022年10月1日～12月31日

受領日順／ご希望者のみ掲載

長谷川 吉孝様、植田 進様、西山 通様、西山 恵文様、松村 建志様、宮田 昭二様、
吉田 正子様、横山 和司様、梅川 憲子様、王 佳寧様、求 美恵子様、北谷 晴美様、
山田 郁子様、三越不動産株式会社 取締役会長 新見 葵様、大東 生子様、
真鍋 せい子様、佐々木 武雄様、柏 之雄様

他 匿名者 21名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い
医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。

このたび当センターのご寄付に関するホームページを改修しました。頂きましたご寄付の活用方法や税制上の優遇措置について紹介しております。

皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

<https://oici.jp/center/effort/donation/>



OICIだより 2023年冬号〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2023年1月発行



ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



[@oici.jp](https://www.facebook.com/oici.jp)

ライン



<https://lin.ee/Z0cDHhU>



◆電車でご来院の場合

Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 /
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。